

# アトリエ 琉游舎 だより 105号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2021年5月19日発行

## 琉游舎 四歳の誕生日

- 5月20日で琉游舎オープン4周年です。三歳の誕生日は「会社などの組織は創業期の混沌から方向性が明確になり成長期へと歩を進めている時でしょう。そうでなければ倒産店じまいか解散しています。」とこの欄で書きましたが、店じまいもなく成長期の4歳となりました。
- 「四」にまつわる言葉に「四門出遊」があります。お釈迦様が太子の時、東西南北の四つの城門から出掛け、各々の門外で、老人・病人・死者・修行者に会いその苦しみを目のあたりにして出家を決意したという伝説です。そして「四法印」の真理に到達しました。諸行無常・一切皆苦・諸法無我・涅槃寂靜の四句に集約される仏教の根本原理です。その一つ「苦」を生老病死の四つの「苦」はじめとして「四苦八苦」と認識しました。こうみえてくると「四」はあまり幸せそうな数字には見えますね。しかしお釈迦様はこの「四苦」から私たちを解放する方法(解脱)を教えてくれたのです。それが安らぎの宗教である仏教の教えです。
- 「一天四海」は天地と四方の海、つまり全世界のこと。「四海兄弟」は真心と礼儀を尽くして他者に交われば、世界中はみな兄弟のように仲良くなることができるということ。私は朝勤の回向文で「一天四海皆帰妙法」と唱えます。これはお釈迦様の教えに帰命すれば「四海兄弟」となるという平和と平等と安らぎの願文です。良いこと尽しのお釈迦様の「四」です。
- ところがこの「四」も「五」に向かう過程では波乱を含んできます。世界の一体感がいつの間にか「四分五裂」となり「四捨五入」の切り捨てられた四以下は、切り上げられた者たちとの収入や世代や人種格差などがさらに大きくなっていくでしょう。と「四の五の」言うばかりだと「四角四面」の堅物・変人と思われ「四面楚歌」にもなりかねないので、たまには「四角な座敷を丸く掃く」こともこんな時代だからこそ必要ではないかと考えています。

### 5・6月スケジュール

5月			6月			
月	火	水	木	金	土	日
			20 映画会 13時半	21	22	23
24	25 読書会13時半 居酒屋の会16時半	26	27 映画会 13時半	28	29	30
31	6月1日	2	3 映画会 13時半	4	5 詩話会 13時半	6 写経会 13時半
7	8 読書会 13時半	9	10 映画会 13時半	11	12	13
14	15	16	17 お休み	18	19	20
21	22 読書会 13時半	23	24 映画会 13時半	25 居酒屋の会 16時半	26	27

**読書会 13時半から**  
 5月25日・6月8日・22日(火)  
 日蓮の「立正安国論」と消息文を読みます。テキストもすべてご用意。お気軽にどうぞ。

**映画会**  
 毎週木曜日 6月17日の映画  
 13時半から 会はお休みです

**詩話会**  
 6月5日(土)  
 13時半から

**写経会**  
 6月6日(日)  
 13時半から

**居酒屋の会**  
 5月25日(日)6月25日(火)  
 16時半から

昨年の1月以来東京都内に足を踏み入れたことはただ一回です。親類の家族葬の依頼を受けて都内の斎場との間を往復しただけで、寄り道することなく帰って来ました。また友人たちと飲食店で食事や酒を酌み交わすことも一切なくなりました。自家用車で長野や見延山に出かけたことはありますが、一番近場の都市である宇都宮には全く足を踏み入れていません。この1年半近くの私の行動を振り返ると、宇都宮餃子を食べなくても映画館や美術館に行かなくても宴会をしなくても全くストレスも不便も感じないということでした。どうやらこれらは私にとって不要不急の用であったようです。かといって琉游舎に閉じこもっていたわけではなく、コロナ禍以前にも増して琉游舎を中心にして同心円状に行いを実践し、日々その縁の拡がりを更新するありのままの毎日です。奇貨は遠くでなく自分の足下にあることがよく分かったコロナ禍の今です。

今、同心円状に拡がった縁の輪が三重県まで到達しています。私の善知識<sup>注1</sup>の一人、伊賀上野の真宗高田派の僧侶の発案で4月からズーム読書会を始めました。彼は昨年3月まで勤めた横浜の小学校を退職し、実家の寺を拠点にして寺本来の機能の一つ寺子屋活動などの実践の日々を過ごしています。彼の声かけで元大学教授で住職のお父上、働きながら真宗本願寺派の僧侶として修行中の銀行マン、国語教育学の泰斗の先生、行動する日蓮宗僧侶の5人で「無量寿経」の読書会を始めています。異なる経歴の持ち主同士のこの会は、自ずから各々の日々の信行から経の意味を読み解いていこうという流れになりました。距離はネットのズーム会議が埋めてくれます。宗派や宗教の違いは各々の信行のあり方の実践をお互い知りたいという欲求の前では、全く障壁となりません。私が聞く皆さんの話は総て私の信と行の後押しをしてくれるものばかりです。

無量寿経は浄土真宗各派の依り所となる経文です。日蓮宗の所依の經典は法華経ですから、知識として読もうと思わない限り私には全く縁遠い経です。しかも日蓮聖人の著作「立正安国論」は法然の念仏宗を邪法と論破して成立している書物ですから、宗派に囚われると相容れない教えが「南無阿弥陀仏」の念仏と「南無妙法蓮華経」の題目です。私は「経にこう書いてある」「宗祖はこう言っている」と、高座<sup>注2</sup>から教えと称するものを説教するばかりで、一向にそこを下りようとしない人達を僧侶とは呼びません。僧侶は経を色読しなければなりません。色読は日蓮宗に於いて「法華経を教え通りに正しく読み取って実践修行する」ことです。色読は身読であり実践読です。「法華経を余人の読み候は口ばかり、言葉ばかりは読めども心は読まず。心は読めども身に読まず。色心に二法共にあそばされたるこそ貴く候へ」<sup>注3</sup>日蓮聖人が弟子に送ったこの書簡には「世間の人々は法華経を読むのはただ口ばかり言葉ばかりには読むが心には読まぬ、心には読んでも身には読まぬが、あなたは身(色)にも心にも読まれたことは真に貴い事である」と書かれています。私は日蓮聖人の弟子ですから法華経を色読します。そしてその前にお釈迦様の弟子ですから経はすべて色読されるべきものなのです。どの宗派の所依の經典であれその経文は解釈するのではなく、今の自分の行いを通して読み、我が身に当てていくことが色読です。すると私には無縁と思えた無量寿経やその他の經典にも、ありのままのお釈迦様の教えが立ち現れてきます。「あなたの毎日をちゃんと生きなさい、それがあなたを安らぎの処へと導く日々の行いそのものなのです」と。経を色読することは日々を生きることなのです。

お釈迦様にはお釈迦様の、私には私の、あなたにはあなたの「生きる」があります。その生きるがはたらく場のすべてが行です。つまり日々の生活全体が行です。信は私たちが自分の生きるいのちの姿に気づくことであり、いのちそのものに自分自身を帰投(帰依)することです。それが「信」であり「行」です。私は法華経の色読で「永遠のいのち」に帰投した日々を生きます。念仏の徒は無量寿経の色読で「弥陀の本願」に帰投した日々を生きます。いずれも安らぎの道を歩む「行い」なのです。人は他人の行いの日々を肩代わりすることは決してできません。各々の行いはその人だけの行いです。ですからお釈迦様の教えは唯一無二であっても、信行の形は経を色読する者の数だけあるのです。同行の友たちと信行の道を歩んでもそれは何処まで行っても個人の信行であり集団のものではありません。師や宗派の意志に引っ張られて進む道にあるものは盲信行です。自分唯一の信行との確信があってこそ、安らぎの道を歩み続けることが出来るのです。

「親鸞は弟子一人ももたず候」<sup>注4</sup>と語りました。厳しいですが仏教の本質を突いた言葉です。親鸞の下で言葉を寸分漏らさず聞き信仰の安心を求めに来ていた人達に対して「私には弟子は一人も居ない、あなたたちは私の弟子ではない」と言い放っているのです。続けて「なぜなら私自身のはからいで他人に念仏させたなら私の弟子と言えるかもしれないが、皆さんは阿弥陀仏のはからいで念仏をしているのですから、その様な方を私の弟子だと言うことは心が寒々する思いです」と語ります。皆さんは親鸞の弟子ではなく阿弥陀様のお弟子なんですよとされているのです。僧侶は仏の代理人ではありません。皆さんと伴に仏道を歩む同行の友です。そこには出家と在家の区別はありません。在家は経済活動を通して、僧侶の私は永遠のいのちの供養を通して信行を行っているだけです。聖職者も世俗の徒もみな等しくお釈迦様の弟子なのです。

昨年1月以来のコロナ禍と言われる不自由な時代に、ネット会議が心理的物理的距離を一気にゼロ(空)にしてくれました。リアル空間の不便がネット空間での便利と自由を実現してくれたのです。「不便即便利」

「自由不自由一如」の「空」の実現と言えは言い過ぎでしょうか。またそこで私は **琉游舎：戸井 出琉・恭子**  
「ありのままに観る」ことと「弥陀のはからい」は全く同じことだということ **お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152**  
ことにも気づいてしまいました、がそれはまた不謹慎なことでしょうか。 **矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850**